

# 大阪府立桃谷高等学校 CSI・II部 キャリア教育全体計画

<b>教師の願い</b> つまずき、失敗を糧に、社会人として必要なマナーやルール、コミュニケーション能力等を身につけ、目標をもって生きていける基礎力を身につけてほしい。	<b>学校教育目標</b> 1. 本校のあり方や方向性の検討と、生徒・保護者・地域等の期待に応える教育活動の展開 2. 生徒の現状をふまえた「学びのシステム」の構築と、進路指導体制の充実 3. 生徒の自尊心を回復し社会性の向上を図る取組み及び人権教育の確立	<b>生徒の実態</b> ・年齢や経歴など多様な生徒が在籍し、卒業をめざしている。 ・自分の能力や可能性に気づかず、自信がもてなかったり、力を磨いたり、力を発揮することができずにいる。 ・他者とのコミュニケーションが上手にとれるようになれば、社会で活躍できる力や可能性を秘めている。
<b>保護者の願い</b> 毎日授業に出席し卒業をめざす中で、社会性を身につけ自立した一人の人間として成長してほしい。	<b>めざす生徒像</b> 1. 自己の存在意義を認識し、社会の一員として自己実現できる能力と資質を備えた生徒 2. 社会の中で必要なルールやマナーを守れる生徒 3. 他者を受け入れ、コミュニケーションをとり、円滑な人間関係を築ける生徒	

<b>キャリア教育の目標</b>
社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、社会のなかで自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現できる生徒の育成。

<b>育成すべき能力や態度</b>			
<b>①人間関係形成・社会形成能力</b> ●他者を理解し受容する力 ●コミュニケーションスキル等	<b>②自己理解・自己管理能力</b> ●自己の理解 ●前向きに考える力	<b>③課題対応能力</b> ●情報の収集・理解等 ●課題発見・解決 ●計画・実行	<b>④キャリアプランニング能力</b> ●学ぶこと・働くことの意味や役割の理解 ●将来設計

各教科・科目におけるキャリア教育		
<b>国語</b> ②③の能力育成のため、教材の内容を的確に把握し、自己の意見を言語化する機会を設ける。 ①の涵養を図るため、意見を発表し合い、教材の読みを深めていく過程を経験させる。	<b>地歴</b> ③様々な資料を扱う事で、情報を適切に活用する力や、諸事象を公正に判断する力を養う。 ④自己の生き方や役割、将来設計ができる能力を培うため、各分野の見地に基づいた幅広い知識・教養を身につけさせる。	<b>公民</b> ③公民としての資質を養うため、現代社会の課題に対し、主体的に考察する機会を設ける。 ④人間としての在り方生き方を考える力を養うため、個人と社会、現役と将来について討論や発表の機会を充実させる。
<b>数学</b> ②③の能力育成のため、基礎的学習並びに演習問題に繰り返し取り組むことで、粘り強く思考する態度を育む。 ③④の能力育成のため、数学の学習を通して論理的思考を養い、物事を多角的に考える態度を育む。	<b>理科</b> ②④の能力育成のため、自然科学の基礎的な知識や自然科学の考え方を身につけさせる。 ③の能力育成のため、日常にある自然科学の事象や、新しい自然科学の話題を紹介し、収集させて考えさせる。	<b>保健</b> ②自らの健康を適切に管理するため、健康・安全についての理解を深め実践していく態度を育む。 ③④の能力の基礎を育むため、試合運営や審判法を覚え、生涯にわたってスポーツ活動を継続できるようにする。
<b>芸術</b> ①③④芸術教科の特性である、発想力、鑑賞力の育成を各教科の基礎科目において身につける。卒業後も、豊かな感性を持ち充実した生活を送ることができるように、授業を通じて、伝達し育成するように努める。	<b>外国語</b> ①意志を伝えようとする姿勢を養うため、豊富な発問をする。 ②③自己表現能力を養うトレーニングを積極的に取り組ませる。よって、他者に働きかける能力をのばす。	<b>家庭</b> ①③共生社会の一員として主体的に生きる力を身につけるため、人の一生とその生活への理解を深めるための理論学習と実習を行う。 ②④ライフプランを見通した経済や消費者の諸課題について実践的学習を行い、自己管理能力を養う。
<b>情報</b> ①③④情報化社会の一員と自覚し、どの分野においても活躍できるように、情報機器の活用力、コミュニケーションの形態や表現の工夫、メディアリテラシー能力等、社会人としての基礎力を身につける。	<b>商業</b> ①③経済社会の構成者としての意識を高めるため、グループ調査や課題解決の機会を設ける。 ②④経済社会に主体的に貢献する意欲を高めるため、実際のビジネスに即した体験的学習を充実させる。	<b>福祉</b> ①③ハンディキャップのある人を支える心と技術を養うため、実習や映像作品の鑑賞などを行う。 ②④働く人を守る制度を学ぶため、新聞記事や映像作品を素材に具体的に考えさせ、また労働保険・社会保険制度について詳しく学ぶ。

<b>総合におけるキャリア教育</b> ①③他者へ働きかける力を身につけるため、チームで協力し課題の解決を行う。 ①②④広い社会と自己との関わりを知り、様々なことに興味関心を持つため、文化や社会、歴史、共生について学び、見分を広める。 ③④将来設計のため、情報収集や、現在の自己の状況や課題の把握をする。 ②自尊心を高めるため、成功体験や達成感を積み重ねていく。
---

<b>特活におけるキャリア教育</b> ①コミュニケーションスキルの向上を図るため、体験的な活動や話し合い活動、異年齢集団による活動を取り入れる。 ③④社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育成するため、就職や進学について知り、考える活動を取り入れ、職業や各種学校を知る機会を設ける。
--

キャリア教育推進のための基盤			
<b>ももプロ</b> ●教職員の協働体制の確立 ●校内研修の充実 ●桃谷版キャリア教育プログラムの作成	<b>職員研修など</b> ●キャリアカウンセリング等の即使える知識・技術が習得できる研修 ●体験型研修	<b>保護者</b> ●キャリア教育の重要性に関する情報発信 ●キャリア教育への理解と協力による連携の充実	<b>地域</b> ●地元企業でのインターンシップ ●ハローワークとの連携 ●出前授業の依頼